

小学校・第6学年・外国語科・My Future, My Dream 夢宣言スピーチをしよう①

札幌市提供

育成を目指す資質・能力

- (1) 中学校生活や将来について考え、夢を発表する語句や表現を理解するとともに、それらを用いて、自分の考えや気持ちなどを話すことができる。
- (2) 夢を発表する目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付加したりして、発表することができる。
- (3) 中学校生活や将来について考え、他者に配慮しながら、自分の夢について発表しようとする。

ICT活用のポイント

- 各児童が、ICT端末を活用して動画撮影した英語のスピーチを共有し、互いの発表を視聴して学び合う。
- 中学校区内の小・中学校間で、互いが作成したスピーチ動画を視聴し合い、オンラインで評価や感想等を伝え合う。

事例の概要

中学生が作成した「中学校紹介」のスピーチ動画を視聴

中学校生活や将来について考え、ICT端末を活用して「夢宣言スピーチ」の動画を作成

中学生に「夢宣言スピーチ」を視聴してもらい、ウェブ会議ソフトを活用して感想や質問を交流

①中学生が作成した英語での

「中学校紹介」のスピーチ動画を視聴し、感想や質問等をメールで返信する。



②中学校生活で楽しみにしている学校行事や部活動、将来就きたい職業等について、ICT端末を活用しながら「夢宣言スピーチ」の動画を撮影する。出来上がった動画を中学校に送り、中学生が視聴する。

③ウェブ会議ソフトを活用し、中学校と交流を行い、スピーチの振り返りを行ったり中学校生活について知りたいことをインタビューしたりする。

小学校・第6学年・外国語科・My Future, My Dream 夢宣言スピーチをしよう②

【事例におけるICT活用の場面①】



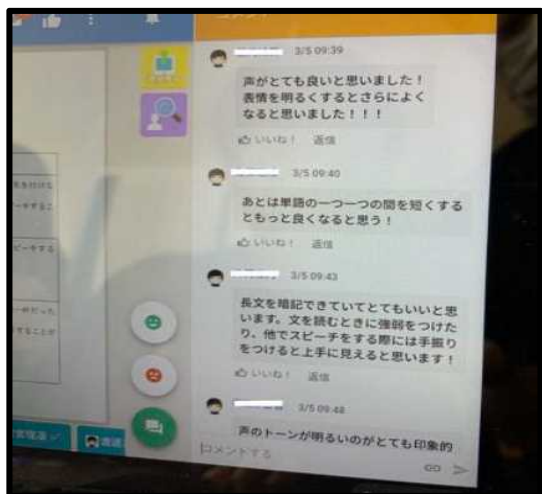
複数児童で1台のICT端末を活用する場合に比べて、各児童がそれぞれのICT端末を活用し、準備、動画撮影をすることで、作業に要する時間が短縮され、スピーチ考案や話し合いの時間を十分確保できる。

【事例におけるICT活用の場面②】



- ・動画の制作途中段階でウェブ会議ソフトを活用して交流する中で、中学生やクラスメートからアドバイスをもらうことにより、自身の発表の完成度を上げることができる。
- ・1人1台のICT端末環境が小・中学校で共通して整備されたことにより、ウェブ会議ソフトを活用して動画の共有ができる。それにより、遠隔でも互いの表情を確認しながら相互評価ができ、よりよいフィードバックにつながる。

【事例におけるICT活用の場面③】



- ・作成した「夢宣言スピーチ動画」を中学生に視聴してもらうことで、英語の表現だけでなく、話す速度や表情、ジェスチャーなど視覚的な情報をもとにした評価をもらうことが可能となる。
- ・評価のコメントは、メール機能やチャット機能を活用した。グループを設定してチャット機能を活用すれば、より多くの人からフィードバックしてもらうことができ、今後のスピーチ発表について、生かすことができる。
- ・学習支援ソフトを用いて動画を提出するようになれば、指導者が動画を見て評価したり、評価コメントを児童にフィードバックすることも可能である。

【活用したソフトや機能】学習支援ソフト、ウェブ会議ソフト、カメラ機能、メール機能、チャット機能、ファイル共有機能